

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 千共 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話  
03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
発行人 愛澤 豊重  
編集主筆 竹澤 知代志

## 教区総会報告 ③

沖縄・東海・東北・東京・西東京・関東



難題を抱えながらも、議事は粛々と…

### 嵐近づく時、思い一つに

神奈川を除く全教区の総会が終わった。教勢の低迷、財政の危機は深刻の度合いを高め、謝儀互助制度の維持が困難になっているとの報告がある。勿論、困難の中での戦いも報告されている。一方、各教区総会への教団議長挨拶が波紋を呼んでいる。迫り来る嵐の前に港に入るべく船足を上げたい。しかし、一つひとつの船を正しく保守管理し、航路を守り、互いに支え合い励まし合うことは、避難すべく最寄りの港に入ることよりも重要。議長挨拶は、教団丸の舵取りを示す決意を示したもの。今こそ、正しい道筋を辿り、正しい目的地を目差さなければならない。それがむしろ、乗客と荷物の安全を守ることもなろう。

### 互助制度の維持と財源確保が課題

#### 予算案常置委員会に差し戻し

沖縄

第62回沖縄教区定期総会は、五月二七、二八両日、沖縄キリスト教センターに、正議員四六六名中、開会時四三名が出席して開催。総会は五年連続で間安使を拒否した。

知花正勝議長は、議長報告で「互助要請の増加と経常収入減少で均衡が崩壊し、互助制度の維持と財源確保が大きな課題となった。教会の実力を丁寧な議

論する時代に直面している」と述べた。これに対し、大幅な互助の力ツトを総会で初めて知った。何故いきなりの減額発表なのか、「教会総会で従来通りの互助を見込んで予算を可決している」など激しい反論が相次いだ。知花議長は「従来はルールを破って資金を取り崩して来たが、厳しい財政状況の中でルールに従って決め

た。教区がどうやって教会を支えることが出来るか。重い宿題だが、皆が折って決断するしかない」と答えたが、いったん議論を収束して予算審議で引き継ぐこととした。

一日目夕食後、教区が当面する最重要課題「将来教会の在り方を検討する特設委員会」に関する全体協議会が、傍聴者を含め七〇人近くが参加して開かれた。

まず平良修委員長が発題。教区総会から付託された「沖縄にある望ましい将来教会の在り方」に関する九項目中、これまでに五項目の討議を終えたとして説明を行った。平良委員長はその中で、日本国家により構造的差別の中で苦しめられている沖縄の教会として、独自の信仰告白を告白せざるを得ない。キワードは沖縄だ。教会は国家を

相対化し、国家から自由な存在として動く。ただし、委員会が教団離れという結論をもって臨んでいるという批判は全くの誤解だ」と語った。

平良委員長はまた、「残る四項目と教団との関係の在り方については、今年中に答えを出し、来年の総会に最終答申を出す」ことを明らかにした。

その後、時間が切迫しているとして、全体での質疑応答を取りやめ、五項目ごとの分団に分かれて分団協議を行った。分団では委員会のまとめを委員が説明

### 破綻の危機にある謝儀互助維持を

#### 北議長再選、四役全員が残留

東海

第83回東海教区総会は、五月二二、二三、二四、ホテルアンビラ松風(静岡県焼津市)を会場に開催された。正議員一九九名中開会時一六二名の出席であった。

まず議長に聴き、聖餐に与り、十字架と復活の主イエスのもとに一つとされて

いる恵みに押し出されての開会であった。冒頭の議長報告で北紀吉

議長はまず元会計による不祥事を改めて詫び、その後、教区財政のチェック機能が見直されたこと、謝儀互助申請の増加に伴い、早晩謝儀互助が破綻を迎えかねないこと、そのための「教区互助制度検討小委員会」を設けたこと、また現教団執行部を支持していきたいこと等を述べた。

議長からは「三議会形式での議事運営の分かりづらさ」、「不祥事に対する教区の対応への批判」、「現教団執行部の姿勢を支持するに当たっての教区としての具体的な方策はあるのか」等、活発な発言・質問があった。第一日目は昨年度の各報告と並行して教区執行部の改選が行われた。議長、副議長はいずれも過半数を得る候補者がなく、両者とも

三度目の決選投票にて選出された。教区議長には北紀吉氏(愛宕町)が再選された。北議長は元会計の背任横領の責任を痛感し再選されることを望まなかったが、教区の大きな困難の中で舵を取った北議長への「もう一期つとめて欲しい」との議場の意思が表される結果となった。



予算案を差し戻した教区総会

し、周知させるという色合いが濃厚だったが、「なぜ沖縄の特性を強調するのか」、「沖縄に立つ、が全てのキワードと言われると、本土から来たものはどうなるか。逆差別でないか」といった反論とはかみ合わず、平行線を辿ったままだった。

実質討議に入った第二日目、最も議論を呼び、紛糾したが予算、決算議案だった。新任教師が紹介された。また二〇〇六年度の各報告、通常会計決算は全て承認され、二〇〇七年度事業計画案および通常会計予算案は分科会での審議を経てほぼ原案通り承認・可決された。

教区常置委員選挙結果【教職】西之園路子(蒲原)、長倉勉(三島)、小林貞(遠州)、宮本義弘(沼津)【信徒】小林貞夫(日下部)、的場武彦(下田)、増田伸子(静岡一番町)、原田勇(伊那坂下)(内田知報)

述べ、「決算の処理を常置委員会に付託する」との提案を行った。採決の結果、二七人中、十四人の賛成で可決され、決算議案は常置委付託となった。

より紛糾したのが07年度予算案で、互助伝道費が七一八万円と前年度六八%に抑えられ、申請額(一一三七万円)比では三七%の大幅減となった。知花議長は「教団と距離を置く」との姿勢から全国募金は出来ず、財政的逼迫から削減に踏み切らざるを得なかった。これ以上、資金を取り崩して行くことは出来ず、批判を受け止めるしかない」と苦衷を述べた。

沖縄教区では二七教会・伝道所中、十一教会・伝道所が互助を受けており、互助削減が教師生活扶助費にまで及んだ点に、「三七%減では牧師を辞めるしかない」、「資金を取り崩すことが何故出来ないのか」などの反論が相次いだ。

重苦しい空気の中で議場から①予算案を常置委員会に差し戻す②互助費を前年度同額とし、資金を取り崩すの二つの提案が出たが、差し戻し提案だけがセコンドを得て動議として成立し、採決の結果、二四人中十六人の賛成で可決。常置委で予算を練り直すこととなった。

常置委差し戻し、臨時総会へという波乱の総会となったが、将来教会特設委の最終答申の出る来年の総会が極めて重要なものとなることを予見させる総会でもあった。(永井清陽報)



# 同性愛差別への取り組みを巡って 教団総会の出来事を踏まえ協議会開催

東北

第62回東北教区総会が、五月一九日～三〇日、仙台青葉荘教会を会場に行われた。正議員一五七名中一二三名の出席により総会が成立、組織会と議事日程の承認の後、福島純雄議長の司式により准允式が執行され、三名の教師が新たに誕生した。

一日目、三役の選挙に続いて宣教部委員長選挙が行われ、選挙方法を巡る議論があったが、佐々木栄悦氏（福島）が選出された。諸報告承認、決算報告承認に関する諸議案が扱われて一日目の議事を終えたが、その後、「同性愛差別への取り組みをめぐる」とのテーマで協議会が持たれた。これは、昨年行われた第

35回教団総会での東北教区選出の信徒議員の発言を巡る問題を受けての協議会である。教団総会の議場で差別発言であると指摘された件について、東北教区は直ちに懇談と協議を行い、臨時教区常置委員会を開催し、指摘された発言が差別であったことを認めて謝罪し、東北教区は総力を挙げて差別問題に取り組んでいく決意を表明することを決議した。これを受けて年明けには「あらゆる差別の撤廃を！」東北教区による性差別事件に関する見解と今後の取り組みに関して」と題する文書が福島純雄議長の名で出され、その中で出来事の後継と見解、決意が示された。さらに、二月と三月に教区内四カ所で学習会



1 日目夜の協議会

継続的に学んでいくこととする姿勢などが確認された。二日目には、まず長期宣教方針および宣教計画に関する諸議案が審議された。長期宣教方針の第二期（〇七年～〇九年）に入る今年度は、宣教方針の主題である「共に働く教区」の原点に立ち帰り、共同体としての意識を高め、連帯性に根差した教区を目指すとする内容となっている。宣教計画の中で示された「宣教

算のセンターの財政状況、教区からの借入金返済、運営方針、活動内容など議論の内容は多岐にわたった。結局、継続審議とすべきとの動議が可決された。今回の教団問安使は鈴木伸治書記。議場との間で、山北宣久教団議長の挨拶文を巡って約一時間余り質疑が行われ、いわゆる「荒野の40年」とされる十二項目や、審議未了廃案とした議事運営などに関する質問や意見が集中した。三役選挙結果【議長】福島純雄（郡山）、【副議長】高橋和人（仙台東六番丁）、【書記】宮崎新（福島伊達）教区常置委員選挙結果【教職】小西望仙台北、望月修（仙台広瀬河畔、原裕（天童）【信徒】石田サダ子（安積）、志藤仁一（山形本町）、丹治正雄（福島）（藤盛勇紀報）

## 負担金の六割を教団に納付 教団・他教区に対する責任ある東京教区

東京

第66回東京教区定期総会は五月二九日東京山手教会を会場に、正議員五〇五名、准議員一〇〇名のところ、四二〇名の出席を得て開催された。開会礼拝では、白金教会浅原進牧師による「信仰の吟味」と題する説

教がなされた。礼拝に続き、教団問安使小林貞副議長、来賓小島誠志出版局理事長、高橋豊年金局理事長及び愛澤豊重総幹事職務代行から挨拶を受け、小橋孝一新潟県中越地震会堂等再建支援委員会委

員長、亀岡頤教団部落解放センター運営委員五支区代表からアピールがあった。小林問安使は、東京教区が財的にも人的にも教団の大きな支えとなっていることに謝意を表した。また教団の課題について、正しい

区総会議長は教区運営状況を十八項目に亘って詳細に報告した。主な点については、教区と支区との関係について、教職の按手・准允・就任の三式執行等を支区に委任するが、教区は所属教会の地域共同体であることから教務事項等多岐にわたる課題の連絡調整を進めている。一億二千万円に上る負担金未収が課題であるものの、教区の運営は負担金の四割によってなされ、六割を教団に納付することによって教団を支える責任教区である。更に教区活動連帯金の問題点を指摘しつつも他教区との信頼と連帯を築く姿勢を強く示した。財務議案二〇〇六年度決算は、対予算比約九六％、収入134,083,933円、支出133,376,679円承認。二〇〇七年度予算139,221,654円可決した。特に全教会の賦課額を予算基礎として公表した。他に、三吉明提議案「東



東京山手教会を会場に出席 420 名

## 「教区開拓伝道準備委員会」設置を可決 教区成立後初の教会設立を目差し

西東京

第17回西東京教区総会（定期）は、五月二七日から二八日まで、国分寺教会を会場に開催された。開会礼拝終了後、議員二〇三名中一二三名の出席を確認し、開会が宣言された。組織会で准允に関する件を議事の冒頭で取り扱うことが承認された後、直ちに審議され四名の准允が執行された。

議長報告で質疑があった。第35回教団総会での差別発言を、教区は誠実に受け止めて来たかが問われたが、吉岡光人議長は、慎重に取り扱ってきた問題であ

り、新執行部で継続される（定期）は、五月二七日から二八日まで、国分寺教会を会場に開催された。開会礼拝終了後、議員二〇三名中一二三名の出席を確認し、開会が宣言された。組織会で准允に関する件を議事の冒頭で取り扱うことが承認された後、直ちに審議され四名の准允が執行された。

議長報告で質疑があった。第35回教団総会での差別発言を、教区は誠実に受け止めて来たかが問われたが、吉岡光人議長は、慎重に取り扱ってきた問題であ

二日目は、最初に五名の追悼者を覚え、二名の新着



吉岡光人議長司式による 4 人の准允式

【信徒】川原正言（南三鷹）、高橋豊（白鷺）、小中乃美子（道家紀一報）（永福町）区が与えられていること、また教区成立後教会を生み出していない現状を打開したい、という熱意にも押されて、賛成多数で可決した。議員提案である平和宣言に関する件が審議されたが、宣言内容に修正案があり、採決の結果、修正案が可決された。予定時刻を大幅に上回り、午後五時十五分、終了した。教区常置委員選挙結果（半数改選）【教職】真壁巖（相愛）、山畑謙（小金井緑町）、久山庫平（河辺）

【議長】今泉幹夫（小金）、張田眞（鳥居坂）、橋爪忠夫（洗足）、小橋孝一（霊南坂）、倉橋康夫（富士見町）【信徒】鈴木功男（目白）、川上郁夫（西新井）、池田浩二（霊南坂）、樋田利明（富士見町）、鈴木優子（小松川）（鈴木功男報）







## 宣教師からの声

### 日本に暮らして アルジェツ・メリット

(米国合同教会宣教師)

のか迷うこともあった。讃美歌「Morning Has Broken」(54年版讃美歌四四四番)は私の気に入った。シカゴのオヘア空港から飛行機に乗ったとき、実はまだ自分の決断に迷っていた。ヘッドフォンをかけた途端、流れてきた曲がまさに「Morning Has Broken」であった。その瞬間、私は正しい選択をした、という確信を与えられた。

日本に到着した。その日は成田空港の開港日であった。羽田空港に着陸したにもかかわらず、大阪行きのカウンターは非常に混乱し



アルジェツ・メリットさん



息子クエンティンさん(右)



妻の久子さん



娘のティファニーさん  
(バレエ踊り手姿)

でも彼女たちの人生の成功の秘訣は、大学在学中にキリスト教を基本にした生き方について学んだことだと思ふ。大学が一般的に教育カリキュラムにより力を入れるにして

も、このキリスト教思想を大切に続けて欲しい。私はこの数年、今年もそうであるが、英作文クラスの学生達に、チャペルに出て説教の内容を要約し自分の感想を書く

アイオワ州立大学院を英語学専攻で卒業した一九七七年、私の人生は大きく変わった。アメリカ企業の技術ライターになるという計画し、日本のことなど夢にも思っていなかった。就職活動中に大学の就職課掲示板に目が止まった。「英語教師求む・日本で二、三年間(UCBWM)」とだけあった。独身で、UCCの教会員であり、学位を用いてもっと世界と神の計画を知るのはいいことだと心を決めた。

私は日本についての知識がほとんど無かったためよい決断をした。私は日本についての知識がほとんど無かったためよい決断をした。

一九七八年、私は大阪女学院で英会話と英文文を教えるはじめた。初めは二年の契約だったが後に延長を望まれた。私がそれに同意した理由は、一九八〇年には大阪女学院には、多くの献身的な日本人および外国人のクリスチャン教師達で溢れており、教科のプログラムもキリスト教信仰に支えられ、さらに日本で最高レベルの語学教育の質を誇っていたからである。長年にわたって私は英語を教え、いくつかの教育委員会に属し、毎週の英語チャペル礼拝をコーディネートしていたが、いつの間にか教授になっていた。学生に多くの受洗者を生み出したとは言えないが、それでも彼女たちの人生の成功の秘訣は、大学在学中にキリスト教を基本にした生き方について学んだことだと思ふ。大学が一般的に教育カリキュラムにより力を入れるにして

### 第3回 中国基督教両会 訪日団を迎えて



挨拶する訪日団団長の季剣虹(ジ・ジェンホン)氏

という課題を出している。多くの学生が説教の内容そのものに励ましを与えられた。例えば、星野富弘さんの話や、他の学生達の大学初年度の体験話を聞いて励ましを受けている。

そして今、二九年間の教員生活から引退し、神が妻と二人の子ども、多くの友人を与えてくださったことに祝福をおぼえ、生活の変化に思いを馳せている。

また、一九八七年からの出席教会である大和キリスト教会は数年前に新会堂を建築し、今や教会員が二〇〇人を超えている。その反面、悲しい変化もある。アイオワの私の母教会は、地域の過疎化のため二七七年の歴史に幕を閉じた。

日本キリスト教協議会(NCC)では中国委員会を中心に、第3回中国基督教両会訪日団、TSPM議長のJi Jianhong(季剣虹)議長を団長として総計十名を、二〇〇七年四月十九日(木)から二十六日(木)の八日間にとり、東京地域と関西地域にお迎えし、様々な催しを通して日本のキリスト教界との交流の時を持った。今回の訪日団は一九八四年と一九九九年の訪日団について八年ぶりとなる。また二〇〇四年の第三回NCC訪中国の答礼としては三年目にあたった。

今回の中国基督教両会訪日団の特徴は、CCC議長ではなく、TSPM議長が団長となり、そのメンバーも四〇歳台の方々が殆どで中国各地からのCCC及びTSPMの代表者であった。団長のJ氏は今年で引退と聞いているので、指導者世代交代の引継ぎになっていたと思う。

NCCと中国基督教両会とは二四年間に渡り信頼関係を築いて来たので、何よりもこの訪問は唯一の両国キリスト教関係者交流のバリエーションとしての意義が大きい。

訪問先は、地方教会礼拝を始め、キリスト教主義幼稚園、学校、病院、施設、団体など、二〇箇所近く及んだ。

短い滞在期間の中で、お互いに顔が見えること、そして肌で感じあい、中国と日本は「気持ちを通じ合える」親密さを感じることができた。人事交流促進を提案したところ、先方からもお互いに文章で取り決めて進めようという返事を頂いた。また北京オリンピック開催時には中英の聖書を頒布することを明言していたので、将来、中国基督教両会の動きが更に促進されることを期待したい。

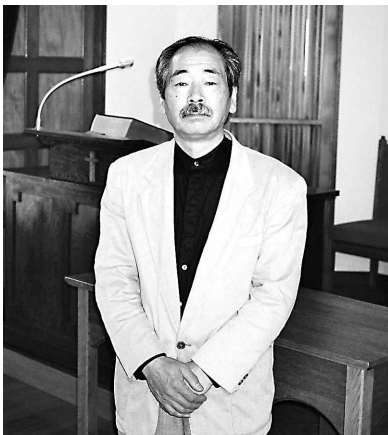
NCCとしては興石議長、山本総幹事、真野職員と通訳の薛(シュエ)牧師が受け入れ責任の窓口になり、その他、多くの方々の協力を得て、このように成功裡に終えたことを心から感謝したい。詳細は何らかの形で記録として印刷物にしたいと願っている。

\*中国基督教協議会(CCC)中国三自愛国運動委員会(TSPM) (渡部信報) 日本キリスト教協議会中国委員会委員長



濱田 政光さん

### 今、ここで踏んばらないと



1950 年、北海道生まれ。一羊舎代表。本荘教会員。  
<http://www.ichiyosha.org/>

自ら負うべき労苦に気付かされ、た、と言ふ。

教会内に久しく無かった伝道委員会が昨年立上げられ委員長に就任した。確かに、少子化、高齢化、過疎化、地域の習俗、地元若者が働く場は少なく現状は厳しい。しかし、今ここに

いる人たちに、とにかく教会に来てもらわないとならない。教会は最上、最良のお方を伝えられるのだから。教会は、今年二〇周年を迎えた。記念礼拝、教会学校OB・OG集会、特別伝道礼拝など、年間を通して計画中。今年だけの単発のイベントに終わらずに、という思いも冒頭の言葉に込められている。

この数年の間に、教会では若い世代も含め十名近くの受洗者が続いている。濱田さんの家族にも受洗者が与えられ、子どもたちへの信仰継承も成った。それだけではなく子どもたちの夫や妻も洗礼に導かれた。親である自分たち夫婦が努力したことではなく全く恵みとして与えられたこと、と語る。このような恵みを無償で与えられたからこそ、なのこと伝道への責任と

台湾基督長老教会の第52回の総会が四月十日から台北の馬偕記念病院で開催され出席した。

国民党と民進党が中国との対応をめぐって緊張関係にある中で、総統選挙実施が近づくと、長老教会もこの関連を直視していることが呂秀蓮副総統の来訪と演説でも伝わってきた。

また世界状況の中での孤立化を脱すべくシンガポール及びマレーシアの長老教会との宣教協力案が可決されたことも台湾基督長老教会の方向性が見えていた。

四役の改選、予算等の承認など

のほかに機構改正も進められ前進する姿が着実と見えた。

教会からの議長挨拶は東京台湾長老教会の李孟哲牧師の通訳によってなされたが熱烈なる拍手によって

のほかに機構改正も進められ前進する姿が着実と見えた。

教会からの議長挨拶は東京台湾長老教会の李孟哲牧師の通訳によってなされたが熱烈なる拍手によって

のほかに機構改正も進められ前進する姿が着実と見えた。

教会からの議長挨拶は東京台湾長老教会の李孟哲牧師の通訳によってなされたが熱烈なる拍手によって

のほかに機構改正も進められ前進する姿が着実と見えた。

教会からの議長挨拶は東京台湾長老教会の李孟哲牧師の通訳によってなされたが熱烈なる拍手によって

のほかに機構改正も進められ前進する姿が着実と見えた。

教会からの議長挨拶は東京台湾長老教会の李孟哲牧師の通訳によってなされたが熱烈なる拍手によって

のほかに機構改正も進められ前進する姿が着実と見えた。

教会からの議長挨拶は東京台湾長老教会の李孟哲牧師の通訳によってなされたが熱烈なる拍手によって

のほかに機構改正も進められ前進する姿が着実と見えた。

### 建造家庭祭壇

のままで掲げることである。家庭伝道、信仰の継承によって主への祭壇を建造していく、そしてそのことが豊かな生命を分かち合つことに通じていくとの自覚を徹底する、ここから教会形成、宣教の使命が果たされていくということ。我々にとっても大切な主題であることは言うまでもない。地に足のついた歩みをなし、主の伝道命令に添えていくために次世代対応型としての家庭に祭壇を建造することは古くて新しい現実的な主題、課題、命題である。(教団議長 山北 宣久)